

鷹取山ハイキング

& 八景島



6月13日(日)「鷹取山ハイキング」に出かけました。場所は、三浦半島の逗子市と横須賀市の境で、標高は139メートルの低山です。神武寺への表参道を緩やかに登り、神武寺から次第に露出する岩場を楽しみながら進むと、突然、展望のすばらしい広場に放り出されます。そして、周りにはたくさんの岩峰がそびえ立ちます。ここは、明治から昭和初期の石切場の跡で、その後、ロッククライミングの練習場所として有名になりました。今でもクライミングの練習に訪れるようです。最も高い岩峰のてっぺんには展望台が設置されていて、そこが、鷹取山山頂。追浜方面へ下ると、巨大な磨崖仏があり、驚かされます。人の手で造り出された神秘的な「鷹取山ハイキング」を終えて、八景島へ紫陽花見物に行きました。八景島イコール「シーパラダイス」というイメージが強かったのですが、八景島の自由なエリアと「シーパラダイス」のエリアはうまく共存していました。八景島も人の手で造られた人工の島です。さらに、隣の「海の公園」には人工の砂浜があり、ウインドサーフィンを楽しむ人々が…。人の手で造られた“自然？”は、どこか人にやさしい気がしました。



パスネットとは、さすが小野さん

この日、小田急線町田駅に集まったのは、小野勝彦さん、横山和明さん、町田行弘の3名でした。昨年4月20日の「大楠山ハイキング」の時、逗子から町田へ帰るルートで、素直にJRで横浜経由では890円、藤沢経由で小田急線に乗り換えると530円ということを知りました。もちろん、今回も小田急線藤沢経由で東逗子に向かいます。

加藤夫妻・宮部夫妻からは参加できないという連絡がありましたし、集合時間の8時45分を過ぎたので、9時03分の乗車予定を繰り上げて、8時55分の急行藤沢行き電車に乗ることにします。藤沢には9時19分に到着。JR線連絡口改札は長蛇の列。小野さんは“パスネット”を持っていて、自動改札であっさり通過します。藤沢までの切符で精算の必要な横山さんと町田は、便利なようで不便かもしれない連絡口の切符売場で待たされてしまいました。

乗客の大半は明月院へ

JR東海道本線9時37分に乗り、次の大船で横須賀線に乗り換えます。大船には9時41分に到着したのに、9時48分は逗子行きで東逗子まで行きません。しかも、その次の電車はさらに手前の鎌倉行きです。とりあえず、逗子行き電車に乗り込むことにします。この電車、なかなかの混み具合で、いかにも、北鎌倉で降りて“明月院”の紫陽花見物だろうと思われる乗客がたくさん。案の定、北鎌倉で大半が、次の鎌倉で残りほとんどが降りていきました。逗子で15分待ち、久里浜行きに乗り、ようやく東逗子に着いたのは10時17分でした。



気持ちのよい山寺

改札を出て、踏切を渡り、車道をしばらく歩くと、右側に神武寺へ向かう表参道が現れます。車は入れない幅の舗装された道を緩やかに上って行きます。途中で6名ほどのハイカー達を追い越します。彼らは京急逗子線の神武寺駅から鷹取山を目指して来たということ。裏参道で来る予定が、道を1本間違えて車道をひたすら歩くことになってしまったようです。



夜に降った雨でしっとり濡れた参道はやがて石畳に替わり、大きな岩の上を歩くようになります。そして、15分ほどで神武寺の山門を通過し、薬師堂のある奥の院に到着しました。なんの飾り気もないシンプルな建造物がきれいに保存されていて、気持ちのよい山寺です。

大人のアスレチックガーデン

神武寺を出て鷹取山を目指して歩き始めます。しばらく石畳の整備された上りは寺から離れるに従ってだんだんと岩場の山道になり、アップダウンを繰り返し、ところどころにくさり場があって、大人のアスレチックガーデンという雰囲気を楽しめます。薄暗い林から明るい場所に出たところが“十州望”で、近くに横浜横須賀道路が見下ろせ、さらに、断崖に岩が突き出し、展望台のようにになっています。身軽な横山さんは、突き出





した岩の先端まで行き、そこからの眺めを堪能します。

道は、さらに岩場が多くなり、鷹取山に近いことを感じさせます。最後に“親不知”が左側にそびえる岩を登りきると、鷹取山周辺の広場に放り出されました。ここが“鷹取山公園”。さきほど横を通った“親不知”が高くそびえ立ちます。その岩壁は、穴だらけ。この公園の至るところに同じような岩峰がそびえ立っています。どうしてこんな奇妙な岩峰が...?!何も知らないと本当にびっくりしてしまいます。自然ってスゴイ！スバラシイ！



歴史を感じる人工の岩峰

実は、スゴイのは人間なのでした。最も高い岩峰“親不知”が鷹取山山頂です。この山は、凝灰質砂岩が露出し、明治時代から戦前まで建築用石材の“池子石”として大量に切り出されたのです。その石切場の跡が岩峰として残り、さらに戦後の山岳ブームでロッククライミングの練習場として栄え、岩峰にはクライマーのハーケンによる穴が無数に残ったのです。当時の勢いはないものの、今でも多くのクライマーが練習に訪れます。その昔、鷹取山山頂へは、“親不知”をクライミングで登るしか方法はありませんでしたが、現在は、裏手に安全な階段が作られ、さらに頂上には展望台も設置されています。この日も、親不知で練習する人、高さ3メートルほどの岩で練

習する初心者がありました。横山さんも20代の頃、ここで練習した経験者ということ！初心者の練習している岩でちょっとだけ若い頃の感触を楽しみました。そして、階段で鷹取山山頂へ。標高139メートルなのですが、展望台からは360度のパノラマが楽しめます。鷹取山公園全体が見下ろせ、人間の作った風景とはいえ、やはりどこか不思議な光景なのです。その奥には追浜の海が見え、さらに遠くに房総半島も確認出来ます。くっきり晴れていれば伊豆大島や富士山も眺められるようです。

若い時は...

展望台から降りるとそろそろ正午、昼食場所を探します。ガイドブックにあった“磨崖仏”を見上げながらと思い、鷹取山公園を奥へ進みます。その途中の岩峰でも本格的にロッククライミングの練習をするグルー





プがいて、思わず見とれてしまいます。スゴイというかオソロシイというか、ワカイというか、オレも年取ったなあ…。磨崖仏に到着して、昼食にしました。なんとなく「若い時はねえ…」 「そうそう、何でもできる気がして…」 「怖くないんだよねあ…」なんて会話に小野さんはノーコメント。きっと“オレは、まだまだ何でもやるゾ！”それが元気の源なのだ！でも、無理をしないところがポイントなのでしょうね。

八景島探検

磨崖仏から10分ほどで鷹取山公園を出て、住宅街を歩き、追浜駅には13時15分頃に到着。帰るには早過ぎます。そこで、オプションツアーを用意してきました。“八景島探検”です。追浜から京浜急行線で金沢八景へ。ここで“金沢シーサイドライン”に乗り八景島で降ります。橋を渡って八景島へ侵入しました。八景島に行った人の話を聞くと“シーパラダイス”が目的ということしか聞いたことがありませんでした。ですから、八景島全体が“八景島シーパラダイス”と思い込んでいたのですが、そうではないようです。八景島には、“シーパラダイス”によるゲートもなく、出入りは自由でした。“シーパラダイス”の運営する遊園地の乗り物や水族館が島内に点在していて、その場その場でチケットを購入して遊べるようになっています。インフォメーションセンターに行けばフリーパスなどお得なチケットもあります。



ところで、今回ここを訪れた目的は、“紫陽花”です。ちょうど“紫陽花祭り”が開催中なので行ってみよう！と。紫陽花の植えられたエリアは思ったより広く花はほぼ満開で見頃でした。ファミリーやカップルに加え、カメラを持った中高年が多いことにビックリ。人の歩く道は階段が少なく、ベビーカーや車いすでも安心して楽しめます。もちろん、そのぶん野性味は薄れますが。



楽しければOK！

八景島を一通り歩いて、“想像していたよりいいところじゃない”。小野さんは、“今度、孫を連れて来よう”、町田は、“子どもがもう少し大きくなったら遊びに来よう”と思ったのでした。八景島の駅前から隣の“海の公園”の人工浜辺を眺めて、海水浴もここなら安全かも…？

安全に造られた遊び場、冒険心をくすぐる自然な遊び場、まだまだ思いながらもそうでもなくなっている身体、まだまだ大丈夫な身体をいたわりすぎてしまう気持ち。でも、“ああ面白かった。また、やろう”と感じたら、グッドなバランスでしょう、きっと。



町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662

